

# 霧 島 山

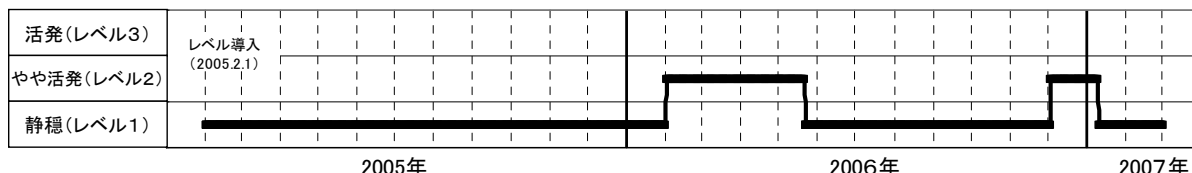
## 新燃岳

### ○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に変化はなく、静穏な状況で経過しました。

平成 19 年 1 月 9 日以降、レベル 1 が継続しています。

火山活動度レベルの推移



### ○ 概況

#### ・地震、微動活動（表 1、図 2、図 6）

火山性地震の発生回数は 128 回（1 月：52 回）とやや増加しました。地震の震源の多くは新燃岳付近の浅いところに分布しています。火山性微動は観測されませんでした。

#### ・噴煙活動

遠望観測では火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

#### ・地殻変動（図 3、図 4）

GPS による連続観測では、長期的に見ると、新燃岳が南東側に膨らむ傾向が観測されています。

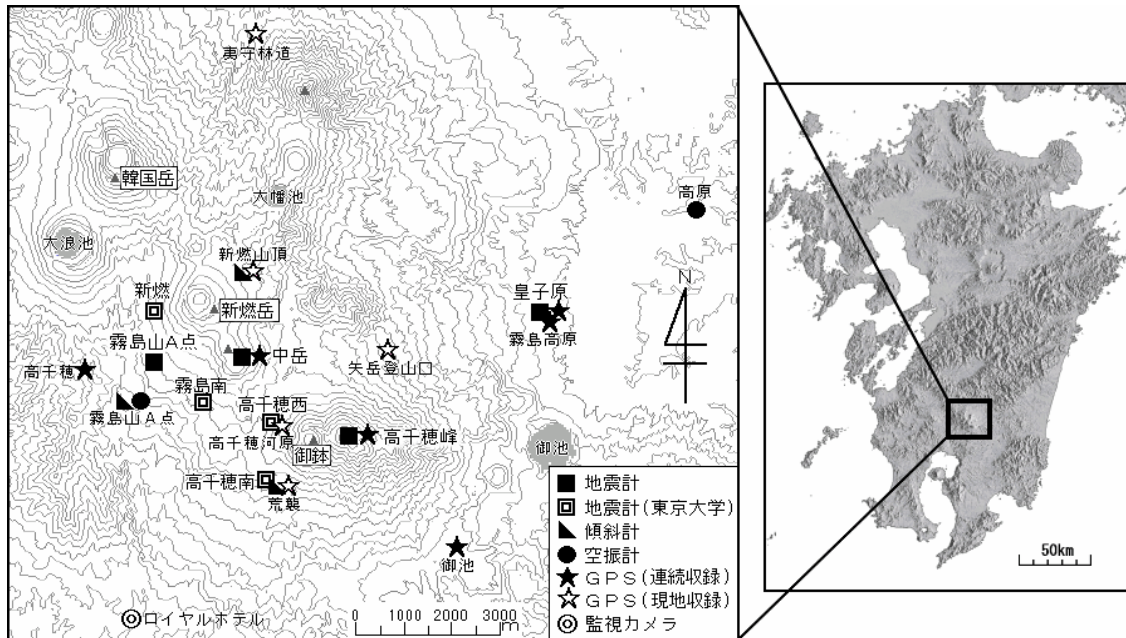


図 1 霧島山 観測点配置図

※この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50mメッシュ（標高）、25000分の1の地形図を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

表 1 霧島山(新燃岳) 地震・微動回数（2006 年 3 月～2007 年 2 月）

2006～2007 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	210	53	37	18	9	3	16	6	8	179	52	128
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

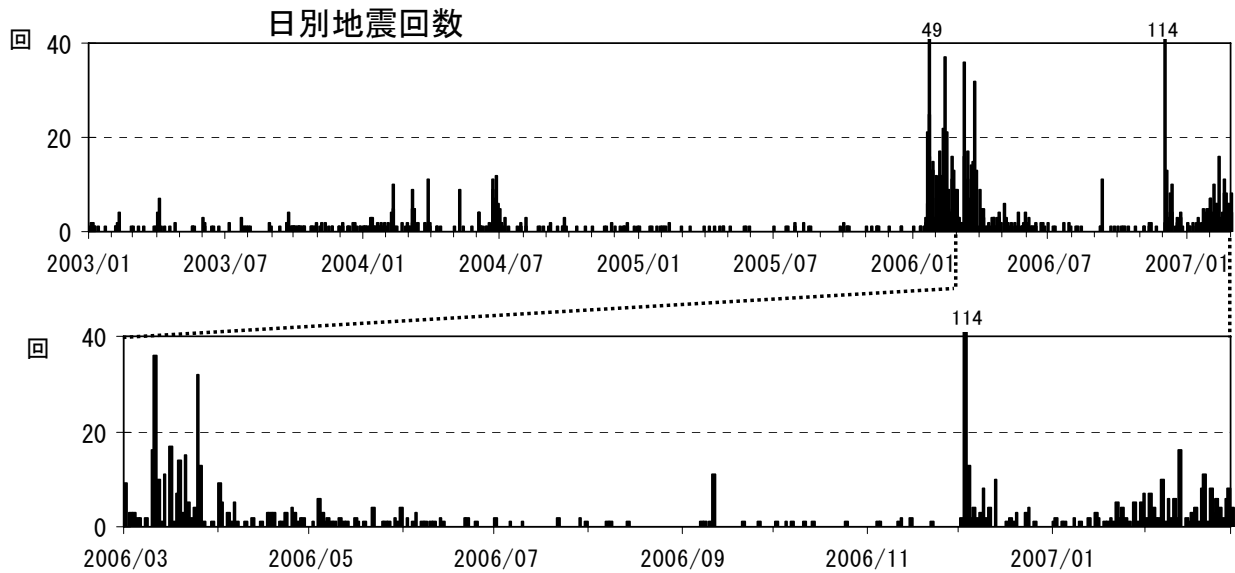


図 2 霧島山(新燃岳) 地震活動経過図（2003 年 1 月～2007 年 2 月）

- ・ 2 月の火山性地震の回数は 128 回と 1 月(52 回) よりもやや増加しましたが、火山活動に変化はありません。
- ・ 火山性微動は観測されていません。

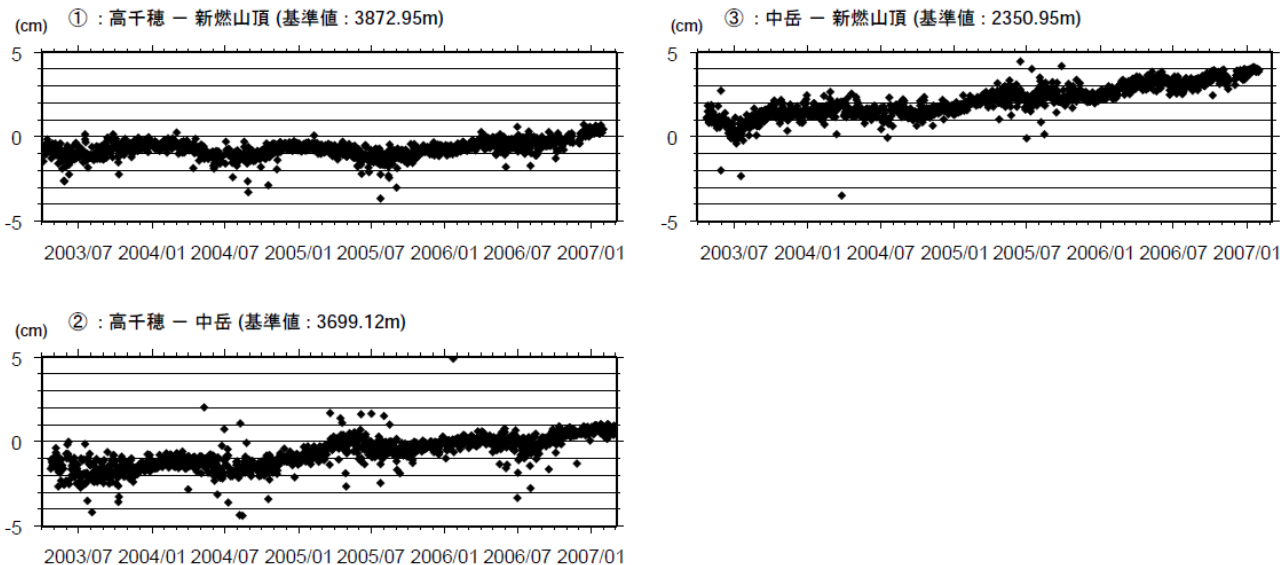


図3 霧島山(新燃岳) GPSによる基線長変化(2003年4月~2007年2月)  
 長期的に見ると高千穂-中岳、中岳-新燃山頂間で伸びの傾向が見られており、  
 これは新燃岳が南東側に膨らんでいることを示しています。

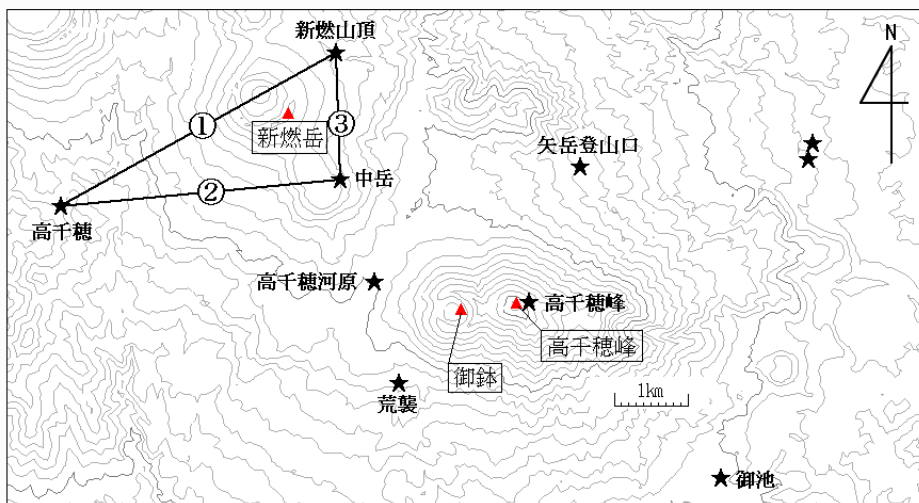


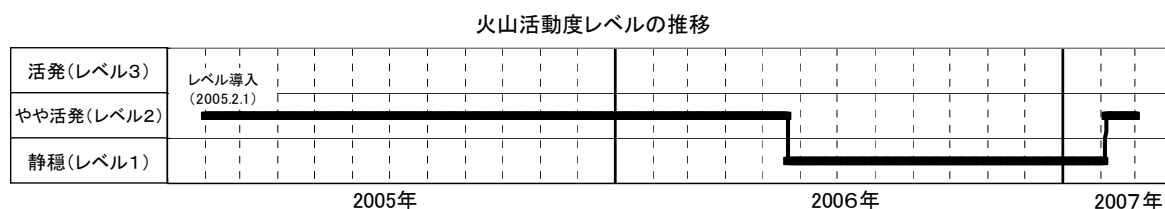
図4 霧島山(新燃岳) GPS連続観測基線図  
 新燃岳を囲んだ3観測点の基線による観測を行っています。この基線は図3の  
 ①~③に対応しています。

御鉢

○ 火山活動評価：やや活発な状況（レベル2）

2月5日に継続時間の短い振幅のやや大きな火山性微動が発生し、火山活動はやや活発な状態となりました。

2月5日に火山活動度レベルを1から2に引き上げました。



○ 概況

・ 地震、微動活動（表2、図5、図6）

5日に継続時間の短い振幅のやや大きな火山性微動を観測しました。その後、9日と18日も火山性微動を観測しましたが、振幅は小さなものでした。火山性地震は少ない状態でした。

・ 噴気活動（図5）

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図7）

GPS連続観測による地殻変動観測では、長期的には高千穂峰や中岳の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

表2 霧島山(御鉢) 最近1年間の地震・微動回数（2006年3月～2007年2月）

2006～2007年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地震回数	3	4	8	9	16	8	7	6	5	9	10	4
微動回数	6	2	2	3	0	0	0	0	0	1	12	3

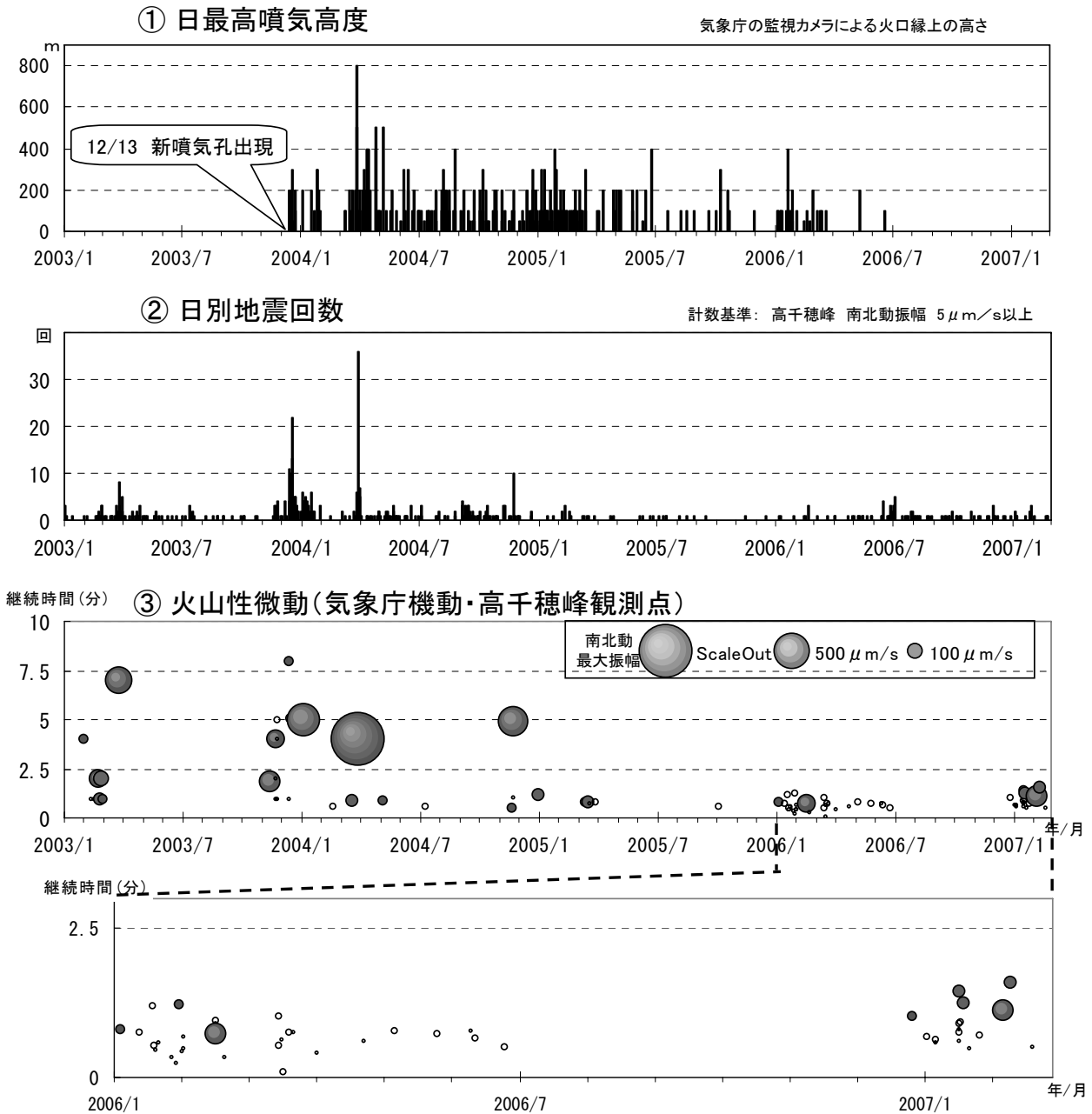


図 5 霧島山(御鉢) 火山活動経過図(2003年1月~2007年2月)

- ・監視カメラでは、火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
- ・火山性地震は少ない状態が続いています。
- ・5日にやや振幅の大きな火山性微動を観測しました。

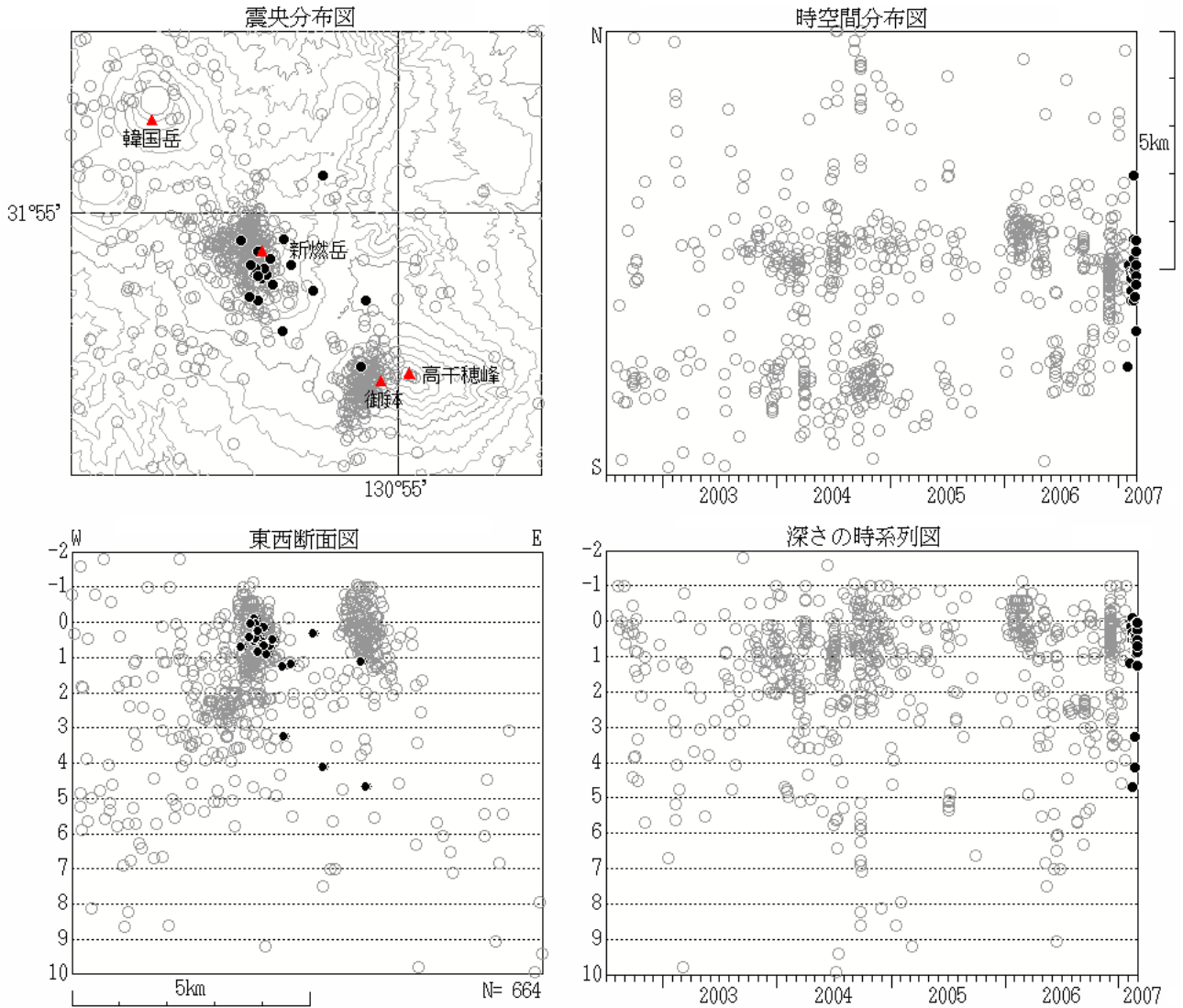


図 6※ 霧島山 震源分布図（2002 年 7 月～2007 年 2 月）

- ・ 今期間の震源は黒丸で表示しています。
- ・ 御鉢付近で発生した地震の震源は 1 個求まりました。
- ・ 新燃岳付近を震源とする地震はこれまでと同様にやや浅い所に分布しています。

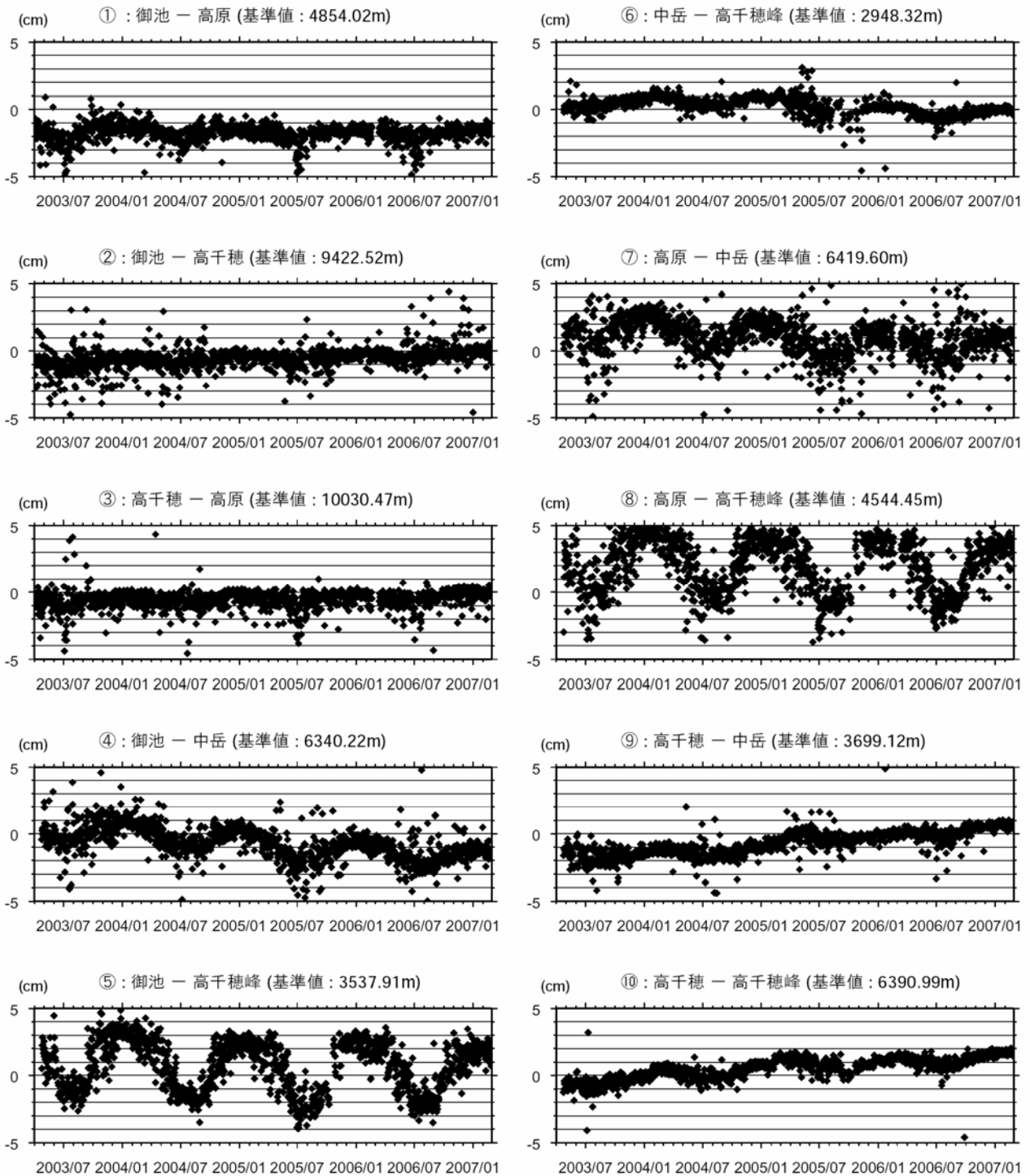


図 7 霧島山 GPS による基線長変化（2003 年 4 月～2007 年 2 月）

- ・ 長期的には、中岳や高千穂峰の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。
- ・ 短期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

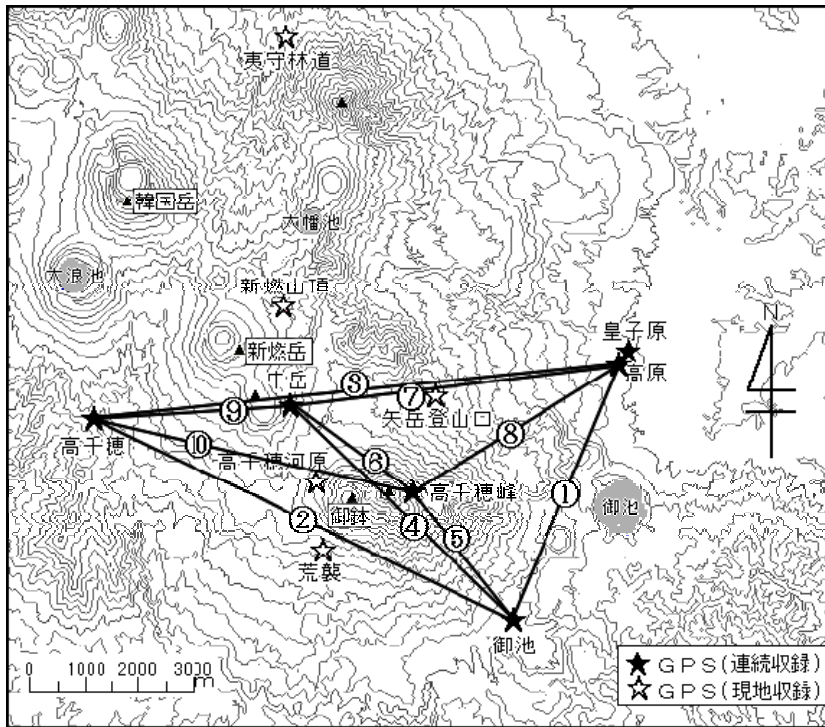


図 8 霧島山 GPS 連続観測基線図